

「夢や目標を持ち、それに向かって挑戦する児童の育成」
～地域の宝「近松」に親しみ、郷土を愛し育む心を育てる～

兵庫県尼崎市立下坂部小学校
校長 杉本 浩 美

1 はじめに



広済寺（国指定史跡）



近松門左衛門の像

江戸時代に活躍した世界的にも有名な劇作家 近松門左衛門の菩提寺が校区にあることから、本校では「近松郷土学習」に取り組んでいる。はじまりは定かではないが、昭和 61 年に尼崎市が市制 70 周年を迎えて「近松のまち」尼崎を宣言し、近松を文化振興のシンボルとして文楽や歌舞伎、近松オペラなどを上演するなど、市をあげての取組が始まる前から、「地域に学ぶ」「地域に開かれた学校運営」を柱に「心のふる里・下坂部小学校」として郷土学習に取り組んできた。

6 年生は、卒業を前に下級生に、「わたしたちが取り組んだ近松学習を、みなさんも大切にしていってください。」と託している。社会が大きく変わろうとしている今、下坂部小学校では、次代を担う子どもたちが、自ら育ったふるさとや自分たちに誇りを持ち、自らの夢や目標を大切に挑戦していけるよう、「近松郷土学習」に取り組んでいる。

2 本校と「近松」のつながり

子どもたちは、近松門左衛門のことを、親しみをこめて「近松さん」と呼んでいる。広済寺の周辺には近松公園や近松通りが整備されており、1、2 年生は生活科の学習で、校区探検や公園探検に出かけている。また、校区の東側にある幹線道路は近松線とよばれており、子どもたちの身近な生活の中に「ちかまつ」ということばがある。2 年生は生活科の学習で「近松かるた」に親しみ、毎年 2 月か 3 月頃、広済寺を訪れて本堂でかるた会を開いている。地域には「近松音頭保存

会」があり、毎年 4 年生は保存会の方々に「近松音頭」を教えていただき、運動会で地域の方々や保護者を交えて踊りを披露している。また、広済寺の隣には地域の方々の力により建てられた近松記念館があり、近松ゆかりの品々が保存されていて、6 年生は社会科と総合的な学習の時間に見学に行っている。

3 近松郷土学習の位置づけ

(1) 研究テーマへの位置づけ

本校では、研究テーマを「自ら学びを探究する児童の育成～近松郷土学習や多教科にわたって学びを広げる授業の創造～」として、「近松郷土学習」に全校で取り組んでいる。特に総合的な学習と生活科を軸にして、各教科と関連させて、探究的な学びの実現に向けた授業づくりをすすめている。

「近松」について学ぶのではなく、「近松」を題材として、「下坂部小学校で子どもたちに育成したい資質・能力」を身につけることを目指している。

(2) カリキュラム・マネジメント～横断的・縦断的なカリキュラムの編成～

以前から、地域との連携を深め郷土愛を育むことを目的として、地域に開かれた参観日「近松デー」を中心として、総合的な学習や生活科において「近松学習」を取り入れ、工夫した実践を行ってきた。様々な教科、特別活動等において、「近松」に親しむ教材を取り上げて学習している。

また、年間計画を立て計画的に学習を進めるとともに、学年に応じた系統的な学習ができるよう、各教科、特別活動と関連させ、横断的・縦断的なカリキュラムを編成している。

(3) 社会に開かれた教育課程の編成～地域の人材活用とゲストティーチャーの活用～

校内では、研究部を中心に学習内容についての検討を、近松部を中心に近松デー等の具体的な行事につい

での計画や活動の推進を行っているが、活動の様々な場面で、地域の方や伝統文化に関わる活動をしてもらえる方をゲストティーチャーとして招いている。コミュニティ・スクールとして、学校での取組を広く地域の方々に知っていただくことと合わせて、地域の方々が「地域の宝」として大切にしてくられた近松門左衛門に関わる学習に子どもたちが取り組み、またその学習に地域の方々にもさまざまな場面関わっていただくことで、社会に開かれた教育課程を実現することができている。

4 具体的な取組

(1) 浄瑠璃クラブ・和文化クラブ

浄瑠璃クラブは、30年以上前に近松ゆかりの伝統芸能に親しむことを目的に課外クラブとして設立された。和文化クラブは、課外クラブには参加できないが伝統芸能に親しむことを希望する児童のために、数年前に課内クラブとして立ち上げられた。いずれも4年生以上の児童が対象で、毎年30名前後の児童が参加し、三味線や太鼓の演奏、「寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」の語りと舞いの練習をしている。



「大近松祭」での『寿式三番叟』



三味線の練習



踊りのお師匠さんと

低学年の頃から、浄瑠璃クラブ・和文化クラブの舞台を見ていて、その姿にあこがれて参加したいと思うようになった児童や、兄弟が参加していて、近松を偲

んで広済寺で行われる大近松祭での舞台を見て、自分も伝統の担い手になりたいと思うようになった児童などがいる。

児童は、毎年10月に広済寺と近松記念館で開催される「大近松祭」や、オープンスクール「近松デー」等での発表に向けて、「寿式三番叟」の演目を練習している。発表の際は、踊り手は本格的な文楽の衣装を身につけ、他の児童も三味線、太鼓、語りとそれぞれの役割を持ち、舞台に立っている。

また、クラブでは舞や三味線の指導を「お師匠さん」に来ていただいて指導していただいている。

(2) オープンスクール「近松デー」

学校で受け継がれてきた浄瑠璃を鑑賞し、地域の伝統文化に親しみ、理解を深めることをねらいとして、毎年、12月の創立記念日に合わせて「近松デー」を実施している。「近松デー」ではオープンスクールとして保護者や地域の方々に公開し、下坂部小学校の取組の様子を見ていただいている。

「近松デー」では、全校児童や保護者、地域の方の前で、浄瑠璃クラブ・和文化クラブの児童が本格的な衣装を身にまとい、児童による三味線や太鼓に合わせて「寿式三番叟」を発表している。また、「寿式三番叟」のあとは、ステージ上の浄瑠璃クラブ・和文化クラブの児童と一緒に、フロアにいる児童も立ち上がり、全校児童で「下坂部音頭」を踊っている。全校生が背筋をピンと伸ばし、三味線と太鼓の演奏に合わせて心も合わせて踊っている。



ステージ上とフロアとで全校生で踊る「下坂部音頭」

また、「近松デー」は、その年その年の各学年の近松郷土学習の発表の場となっている。昨年度の「近松デー」では、6年生がいくつかのグループに分かれて「近松さん」を下級生に伝えることに取り組み、クイズ、寸劇、映像などの発表を行った。

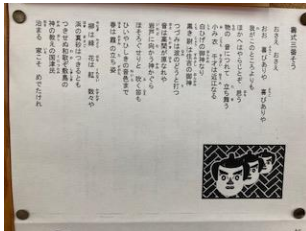
年によっては、普段クラブの指導をしていただいている三味線のお師匠さん方にも演奏していただき、本物に会う体験活動の場ともなっている。

(3) 全校生での帯学習の取組

本校では、8時30分から8時40分の間を「朝読書」、清掃後の13時45分から13時55分の間を「基礎基本タイム」として、帯学習を実施している。「基礎基本タイム」では曜日ごとに行っている国語、算数の学習と合わせて、浄瑠璃クラブで引き継いできた演目「寿式三番叟」の語りと下坂部小学校のために作っていただいた浄瑠璃「下坂部音頭」を全校で練習している。練習では、高学年の児童が低学年の教室に行き、児童による教え合いを行っている。金曜日の音読タイムには、「おさえ おさえ おお 喜びありや 喜びありや・・・」という声が校内のあちこちから聞こえてくる。低学年の教室からは聞こえる声はまだたどたどしいが、高学年はどの教室からも堂々とした張りのある声が聞こえてくる。



帯学習の様子



寿式三番叟

(4) 各学年の取組（令和1、2年度の実践から）

毎年、少しずつ形は変わっているが、どの学年も年間カリキュラムの中に近松郷土学習を位置づけ、クロスカリキュラムとして様々な教科と関連づけて取り組んでいる。

① 1年生の実践 単元名「近松さんについて知ろう」（2学期 全9時間）

生活科の校区探検の一環として、近松公園や広済寺を訪れている。その際、近松門左衛門の像を見たり、一人ずつ近松門左衛門の墓参りをしたりした。また、「近松デー」では浄瑠璃・和文芸クラブの発表を鑑賞し感想を書いた。それらの体験をもとに、国語の学習を発展させ、ペア学級として1年間折に触れて一緒に活動してきた6年生に向けて「近松クイズ」を作った。

生活科の学習などの活動を通じて体験的に学習してきたことを、大好きな6年生に向かってクイズを作るという活動につなげたことで、より深く意欲的に取り組むことができていた。

② 2年生の実践 単元名「近松さん こんにちは」（3学期 全8時間）

尼崎市には、市制70周年のあと、市内の小学生からことばを募集して作った「近松かるた」がある。下坂部小学校では、毎年2年生が3学期にこのかるたに親しみ、学習の仕上げとして広済寺の本堂でかるた会を開いている。

近松の作品や業績を理解することはむずかしいが、かるたという身近な遊びを通して、書かれていることに興味を持ち、「近松さん」が実は下坂部小学校だけでなく、時代を超えて世界的にも有名であることに気づき、その理由を知ることができている。

また、近松門左衛門の菩提寺である広済寺の本堂でかるた会をさせていただくことで、「近松さん」への身近な思いだけでなく、あらためて地域の歴史や伝統の重みを体感する貴重な機会となっている。

③ 4年生の実践 単元名「近松門左衛門について知ろう」（2学期 全20時間）

校区探検や公園探検、近松かるたで親しんだ「近松さん」がどのような人物なのか、またどのような業績を残してどんな人生送ったのか、またなぜ広済寺や尼崎市とのつながりが生まれたのか、書籍や資料、インターネットなどを使って調べ、項目ごとにまとめた。

児童は、知ったつもりでいた「近松さん」について、実は知らないことが多いということに気づき、「もっと知りたい」と意欲的に取り組んでいた。また、調べて分かったことを項目ごとにまとめて、「近松さんの一生」というテーマで劇にして「近松デー」で発表した。劇で発表することにより、見ている人に分かりやすくするにはどうしたらいいか、江戸時代にはどんなものがあつたのか、劇にするにはどんな小物が必要なのか、など、自分たちで気づいて調べ工夫する姿が見られた。

④ 6年生の実践（その1） 単元名「近松資料室 改造計画～近松資料室をオープンさせよう～」（2学期 全10時間）

令和1年度の6年生が手がけ、コロナ流行に伴う臨時休業で最後までできなかった近松資料室の再整備を令和2年度の6年生が受け継いだ。おそらく下坂部小学校で近松郷土学習が始まった頃に作られて、途中しばらく開かずの間になってしまっていた「近松資料室」について、「どうすれば、たくさんの人に興味を持ってもらえるか」という視点で取り組んだ。古くなった資料を新たに書き換えたり、低学年が親しみやすいキャ

ラクターを考えて掲示したり、「近松すごろく」を作って資料室に展示したりと様々な工夫を行い、資料室をオープンさせた。20分休みと昼休みに当番を決め、全校生に呼びかけて新しく整備した資料室を案内していた。



新しく整備された近松資料室

⑤ 6年生の実践(その2) 単元名「近松さんを同級生に発信しよう」(3学期 全20時間)

6年間「近松さん」に親しんだ6年生は、下坂部小学校の下級生にこのことを受け継いでほしいと思うだけでなく、近隣校の自分たちと同じ6年生に、日本の大切な伝統文化である近松門左衛門がこんな身近にあることを知らせたいと考えた。そして、自分たちが学習したことや調べたことから、発信したい内容を選び、パンフレットにまとめた。

コロナ感染対策による臨時休業等に備えて、文部科学省のGIGAスクール構想が前倒しで実施されることになり、尼崎市でも3学期中に全児童に一人一台のタブレット端末が配布されることになった。下坂部小学校では一人一台配布に備えて6月の臨時休業明けからパソコン室にあるパソコンを使って社会科や総合的な学習を始めた。

6年生は、自分たちが使えるようになったICTを活用してパンフレットを作成した。自分たちが撮った写真を活用したり、近松記念館に取材に行き館長さんからお話をお聞きしたり、インターネットから情報を集めたりした。そして、伝えたいことが明確に効果的に伝わる文章構成や割り付け・見出し・写真の配置などのページレイアウトを工夫し、推敲を行った。

できあがったパンフレットは、近隣の小学校2校に送付して読んでもらうことができた。パンフレットを作成することで、改めて校内の近松門左衛門に関する資料を調べたり、自分たちが行ってきた全校での三番叟や下坂部音頭、「近松デー」の取組を振り返ったりすることができた。そしてそれらを発信することで、自校や地域の取組に誇りを持ち、自己肯定感を強くする

ことができた。また、パンフレットづくりにICTを活用することで、情報収集力や情報発信力を高めることもできた。



6年生が作成したパンフレットの1ページ

5 おわりに

本校の校舎の4階にある近松資料室の壁面に、おそらく30年以上前に書かれたであろう文章が掲示されている。「本校では指導の重点の一つに『郷土を愛する心を育てる』を設定して学習を進めています。まず児童の心に『現在住んでいる地域に親しむ心』を芽生えさせたいのです。そして地域の歴史や文化を知り、郷土を守り育てる心を培い地域の方々と学校とが一体となって『近松の里・下坂部』といわれる学校にしたいのです。」

30年経って、その夢は実現している。今、尼崎市では「近松といえば下坂部」「下坂部といえば近松」といわれるようになった。

近松門左衛門が残した作品も浄瑠璃という芸術、江戸時代に生まれて脈々と受け継がれてきたものである。単に古いだけではない魅力が「近松」にはある。その魅力ゆえに地域の方々には地域の宝として近松を大切に、それを幼いながらに受け継ごうとしている子どもたちを地域の宝として大切にしてくれている。子どもたちはその地域の方々のまなざしを受けながら伝承の担い手になることに誇りをもって取り組んでいる。そして、魅力ある題材だからこそ、様々な形で学び、楽しみ、深め、表現し、発信するという学習が生まれている。

これからも、「近松の里・下坂部」から、未来に向かって夢や目標を持ち、それに向かって挑戦する子どもを育てていきたい。

